

畜産試験場だより

岡山県養鶏試験場

◎陽春万花咲き競う好季節になりました。鶏にとっても最も産卵率の高い活力にあふれる時期で、またふ卵の最盛期でもあり、このところ場内は何となく普段より活気づいております。

◎昭和36年度の畜産技術講習生の選考試験が去る3月10日行なわれ、つぎの13名が晴れの入所資格を得て、4月1日入所式が行なわれました。

昨年度の講習生は10名で、1年間の現場生活のうち新しい養鶏技術や経営の所定単位をとり終り、晴れて3月25日終了式が行なわれ、これからの農村養鶏指導者として希望に満ちて巣立って行きました。終了生は農協への就職が多く、民間会社やさらにもう一度酪農講習所の講習生として入所する者もあります。

氏名	本籍地	年令
石川 裕	香川県三豊郡豊浜町	18
奥山 孝夫	西大寺市五明	18
川本 信竹	鳥取県東伯郡大栄町	18
河内 利郎	都窪郡福田村	18
小林 興明	津山市総社	22
佐藤 秀信	都窪郡妹尾町	15
清水 馨	阿賀郡哲多町	20
橋本 忠志	川上郡川上町	18
長谷川 修	新見市草間	18
日笠 光夫	〃 〃	18
前原 勝	都窪郡清音村	19
森本 和義	真庭郡落合町	20
森本 睦男	鳥取県東伯郡東郷町	22

◎卵用、肉用種鶏の改良のために、昨年末の肉用種卵、種雛の輸入に続いて、3月中にもつぎのように3回にわたり輸入種卵の受入れを行ない、現在入卵ふ化中です。ふ化後は検疫指定場所として試験場で2週間の検疫期間中育雛を行ない、これが終ると輸入を依頼中の種鶏家へ引渡すことになっています。

◎ゆりかごから墓場までというわけでもありませんが、初生雛から成鶏までの能力検定、しかもそれに経済的要素を加味した経済産卵能力検定を今年度から実施することになりました。県下のふ卵業者のうち希望者から出品された種卵10件について、5月16日入卵を行って検定を開始することにしています。

◎試験調査としては、近々つぎのものを行なう予定にしています。

▼委託調査として養鶏農家の経済調査を昨年に続き実施することにしています。

これは養鶏農家の経営の実態を、経済的な面を主として総合的に調査把握しようとするもので、今年はずぎの10件を予定しています。

岡山市（岡村年美、小坂修、藤定章）、興除村（有安正夫）、高松町（藤井基弘、坪井和）上道町（大野齊）、玉島市（丸野建一）、備前町（馬場靖隆）、勝北町（流郷蕪）。

▼産卵鶏の飼養標準設定に関する試験、

▼ブロイラーのホルモン処理に関する試験

▼コクシジウム予防試験

種卵・種雛輸入内訳

月日	種別	種類	個数	輸入先
3月1日	種卵	白色コーニッシュ	330 (100)	アメリカギャリソン農場
〃	〃	ロードアイランドレッド	59 (30)	〃 パーメンター農場
〃	〃	ニューハンプシャー	30 (30)	〃 ネドラー農場
3月17日	初生雛	白色レグホーン	220	〃 ハンソン農場
3月23日	種卵	白色ロック	230 (30)	〃 アーバーエーカー農場